

コード No. 28035

**Anti-Human
PRAS40 (S183 Phosphorylated) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : mTOR は mTORC1 および mTORC2 と呼ばれる 2 種類の複合体として存在し、前者はアミノ酸により活性制御を受けるとともに免疫抑制剤ラパマイシンにより特異的に阻害されます。mTOR の新規基質である PRAS40 (proline-rich Akt substrate of 40 kDa)における第 183 セリン残基(Ser183, 残基番号はヒト)のリン酸化は、アミノ酸刺激により誘導されラパマイシンにより抑制されることから、PRAS40 は mTORC1 によってリン酸化されると考えられています。また mTORC1 は AMP キナーゼ系により阻害を受けることが知られており、Ser183 のリン酸化は AMP キナーゼの活性化を誘導する 2-デオキシグルコース(2-DG) 処理により抑制を受けます。PRAS40 は mTORC1 によりリン酸化されると mTORC1 構成因子である raptor から解離することが示されており、PRAS40 における Ser183 のリン酸化は mTOR シグナル伝達経路の調節に関与すると考えられます。
本抗体は、PRAS40 における Ser183 のリン酸化を認識します。

免疫抗原 : Human PRAS40 のリン酸化部分合成ペプチド (QYAK(pS)LPVS)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタンブロッティング 1~3 µg/mL にて使用可能

使用方法

参考文献 : 1. Oshiro N, Takahashi R, Yoshino K, Tanimura K, Nakashima A, Eguchi S, Miyamoto T, Hara K, Takehana K, Avruch J, Kikkawa U, Yonezawa K. The proline-rich Akt substrate of 40 kDa (PRAS40) is a physiological substrate of mammalian target of rapamycin complex 1. J Biol Chem. 2007 Jul 13;282(28):20329-39.